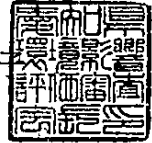


令和3年7月9日

愛知県知事
大村秀章殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 中山 恵



(仮称)名岐道路(一宮～一宮木曾川) 環境影響評価方法書について
(答申)

令和3年4月30日付け3環活第59号の諮問については、別添のとおりお答えします。

(仮称) 名岐道路 (一宮～一宮木曾川) 環境影響評価方法書についての答申

はじめに

(仮称) 名岐道路 (一宮～一宮木曾川) 環境影響評価方法書 (以下「方法書」という。) について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

都市計画決定権者は、以下の事項について十分に検討した上で、適切に環境影響評価を実施し、その結果を踏まえ環境影響評価準備書 (以下「準備書」という。) を作成する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。
- (2) 事業計画及び工事計画の詳細が明らかになっていないことから、具体化した計画の内容及びその検討の経緯を準備書に記載すること。
- (3) 環境影響評価の各項目の調査地点及び予測地点が示されていないことから、これらの地点について、今後、具体化される事業計画、工事計画等を踏まえ、妥当性を十分に検討した上で適切に設定するとともに、その設定理由を準備書にわかりやすく記載すること。
- (4) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、選定された項目及び手法を見直し、調査、予測及び評価を行うこと。
- (5) 本事業と同様の構造である既設の高架・平面併設道路の工事時の渋滞や騒音等の状況の把握に努め、得られた情報等を踏まえ、工事計画を検討すること。

2 大気質、騒音

- (1) 本事業は、国道 22 号上に嵩上式 (高架構造) の道路を整備するとともに、インターチェンジ及びジャンクションを設置する計画であり、区域内に住宅等が存在することから、大気質及び騒音 (以下「大気質等」という。) による生活環境への影響が懸念される。

このため、嵩上式 (高架構造) の道路及び平面部の国道 22 号等を走行する自動車による大気質等の複合影響並びにインターチェンジ部及びジャンクション部を走行する自動車による大気質等の影響について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

また、予測に用いる計画交通量の推計方法や、推計に用いた前提条件を準備書に具体的に記載すること。

- (2) 建設機械の稼働に係る大気質等の影響について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

3 水質

工事計画が明らかになっておらず、区域及びその周辺には河川等が存在していることから、濁水の流出による影響が懸念される。

このため、工事の実施に係る水の濁りの影響について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

4 動物

- (1) 区域及びその周辺には日光川や水田が存在しており、サギ類、シギ・チドリ類等の鳥類の生息が想定されることから、道路（嵩上式）の存在による鳥類への影響が懸念される。

このため、区域及びその周辺のサギ類、シギ・チドリ類等の鳥類の生息時期を踏まえて調査期間を設定するとともに、国道 22 号を越えて飛翔する鳥類の状況を把握できるように日光川及び水田の付近等に調査地点を設定した上で、鳥類への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

- (2) 現地調査において、重要な種が確認された場合には、必要に応じて専門家等の指導・助言を得ながら、適切な環境保全措置を検討すること。

5 その他

準備書の作成に当たっては、住民等の意見を十分に検討するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和3年4月30日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
令和3年7月2日	部 会	方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討
令和3年7月9日	審 査 会	方法書の内容の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

生田 京子	名城大学理工学部教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
大石 弥幸	大同大学名誉教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
上島 通浩	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
鷺見 哲也	大同大学工学部教授
田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科教授
富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
◎中山 恵子	中京大学経済学部教授
夏原 由博	名古屋大学名誉教授
西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
○二宮 善彦	中部大学工学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
葉山 嘉一	公益財団法人日本鳥類保護連盟評議員
櫃田 珠実	名古屋芸術大学芸術学部教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)